

した以上、やり遂げなければならぬ、恥を忍んで頑張った。団員の皆さんが聞かされたまらずい中国語も、北京での通訳嬢と上海での通訳氏がさすがに団長に敬意を払ってか、「その日本語は中国語と似ているね?」とは酷評せず、「大体分かった」と評価し70点と60点を付けてくれたことはうれしい。可ではなく、なんと良である!

余計なことを書いて紙面を汚したが、今回の訪中は社研のあり方の一つを示したと思われる。すなわち、個人ベースでは出来にくい他国の企業・産業視察が、社研行事としては可能であり、所員の問題関心を深め、研究の一助になりうることである。もちろんそのためには、前回の池本所員、今回の三輪前所長のごとくすばらしい推進力があつたればこそといえるが、今後もこのあり方は継続してほしいと念願している。そして本特集のごとく参加所員による執筆があつて、報告書にまとまることは団長として誠に喜ばしく、執筆者・編集者の努力に感謝いたしたい。

最後に、訪問先をお世話いただき、かつ懇親の宴を催ほしていただいた中国企業管理協会、天津企業管理協会、上海社会科学院の諸先生、視察を受け入れて下さった企業の関係者、専修大学庶務部庶務課、旅行会社のイッツワールド、そして通訳の皆さん、われわれは多くの方々のお陰をもって有益な視察旅行が出来たことにお礼を申し上げたい。団長としての私は、参加された諸先生のご協力に感謝し、不十分な点はお許しいただくと共に、なにはともあれトラブルもなく無事に旅程を終えられたことに安堵し、二度の視察実績が三度目以降に役立てば幸いと思っている次第である。

視察の日程と概要

高橋 祐吉

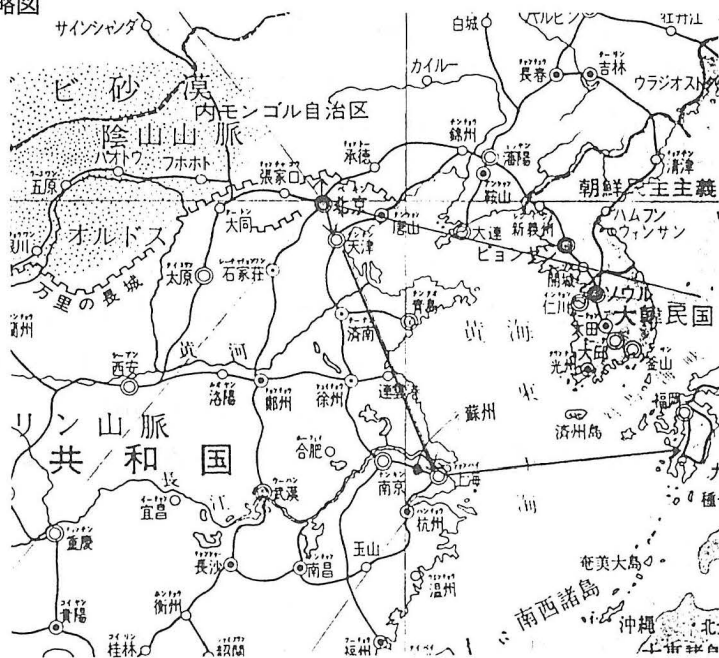
今回の視察の日程と概要を、日記風に日を追って順に簡単に紹介しておこう。北京では、内燃機工場、製鉄所、シャツ工場、紡績工場(天津)を訪問したが、これらの手続きは三輪芳郎前所長と関係の深い「中国企業管理協会」(CEMA、三輪先生の話によれば、通産省と生産性本部が一緒になったような組織だとのことである)に依頼した。また上海では浦東開発区を見学し日中の合弁企業を訪問したが、これは上海社会科学院の紹介によるものである(簡単な中国の全図については図1を参照されたい)。また北京滞在中は、「中国企業管理協会」の対外連絡部に所属している郎恵男氏に通訳を依頼した。その他の企画は、すべて旅行会社「イッツ・ワールド」によるものである。

95年3月15日（水）午後3時に成田を出発したわれわれ総勢22名（所員21名と添乗員の横井ナナさんは、北京に6時半に到着した。北京は雨、今年に入って初めての雨だという。バスの中でガイドの殷さんの中国事情に関する話を聞きながら、北京での宿泊先のホテル国際飯店に向かった。

16日（木）は、午前北京最大のエンジン工場をもつ「北内集団総公司」（BEINEI GROUP CORPORATION、従業員25,000名、傘下企業20社）を訪問し、馮啓泰副社長から工場の概要の説明を受けたあと工場を見学してもらい、その後再び質疑応答をおこなった（他の企業の場合も同様のスタイルで視察した）。午後は「首鋼総公司」（SHOUGANG CORPORATION、中国最大の企業で従業員262,000名）を訪問し、そこに付属して設置されている改革理論研究所所長の鄭永権氏から話を聞き、工場と展示場を見学した。「首鋼総公司」は中国の経済改革の実験企業であり、81年から「承包制」と称する請負制をスタートさせているとのことであった。帰途寒風吹きすさぶなか赤旗なびく天安門広場を散歩し、夜は「中国企業管理協会」副理事長の李東江氏主催の歓迎宴に招待され懇談した。

17日（金）は、前日とはうってかわり雲ひとつない晴天に恵まれた。この日は二つのグループに分かれ、ひとつは天津の紡績工場の見学にでかけ、もうひとつの中国を始めて訪問したメンバーを中心にしたグループは観光に出かけた。前者のグループは、天津市の企業管理協

図1 中国の略図



会の張華國氏や第二棉紡績廠の副社長の冬暖氏から話を聞き工場を見学した。後者のグループは、故宮、明の十三陵、万里の長城などを回った。この日の夜は、われわれの答礼宴ということで、引き続き「中国企業管理協会」の人々と親しく懇談した。

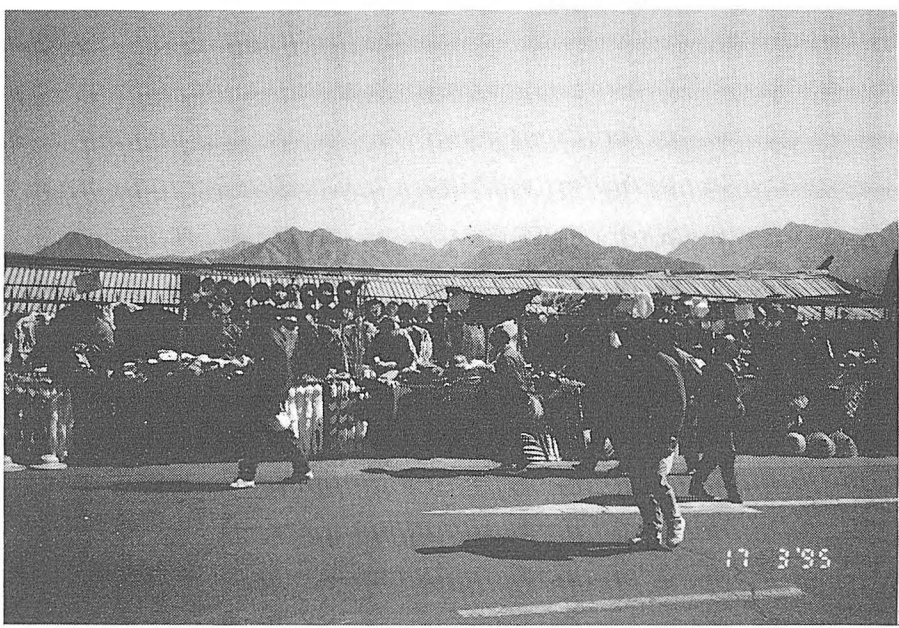
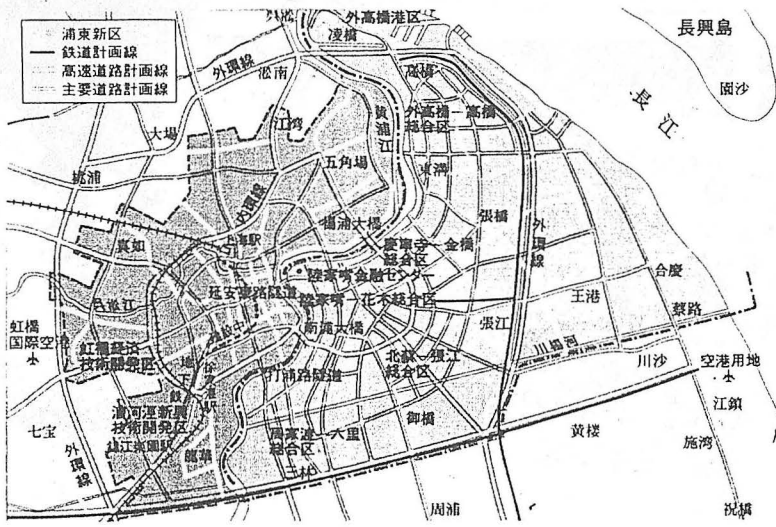
18日(土)は、午前「北京大華襯衫廠」(BEIJING DA HUA SHIRT FACTORY, 従業員 2,000名)を訪問し、社長の牛希芝氏から話を聞き、工場を見学した。ここでは1980年から工場長は従業員による選挙で選ばれるようになっており、これまでの任命制から「上からの民主選挙」に変わったという。ここでも「承包制」が採用されており、生産についての意思決定権は企業にあるので承認をえれば拡大投資が可能であるという。工場見学後、午後3時半の国内便で北京から上海に向かった。2時間弱のフライトで上海に着き、上海での宿泊先である南京東路にある和平飯店に向かった。上海は上着を脱ぎたくなるような暖かさで、繁華街のネオンの明るさも北京とは大違いであった。夜街をぶらりと歩いていたら、「いい娘いますよ」などと声をかけられた。

19日(日)は休日であったため、汽車で1時間強のところにある蘇州に出かけた。中国での汽車の旅はなかなか味わい深かった。蘇州は観光地として有名である。この日も天候に恵まれたため、蘇州では虎丘、留園、寒山寺(唐詩で有名だが、私にはそれほどのものとは思えなかった)などを回って春の中国を満喫し、刺繍の制作現場や展示場を見学した。また簡単な船に乗って運河を渡り、中国の庶民の実生活の一端を垣間見ることができた。

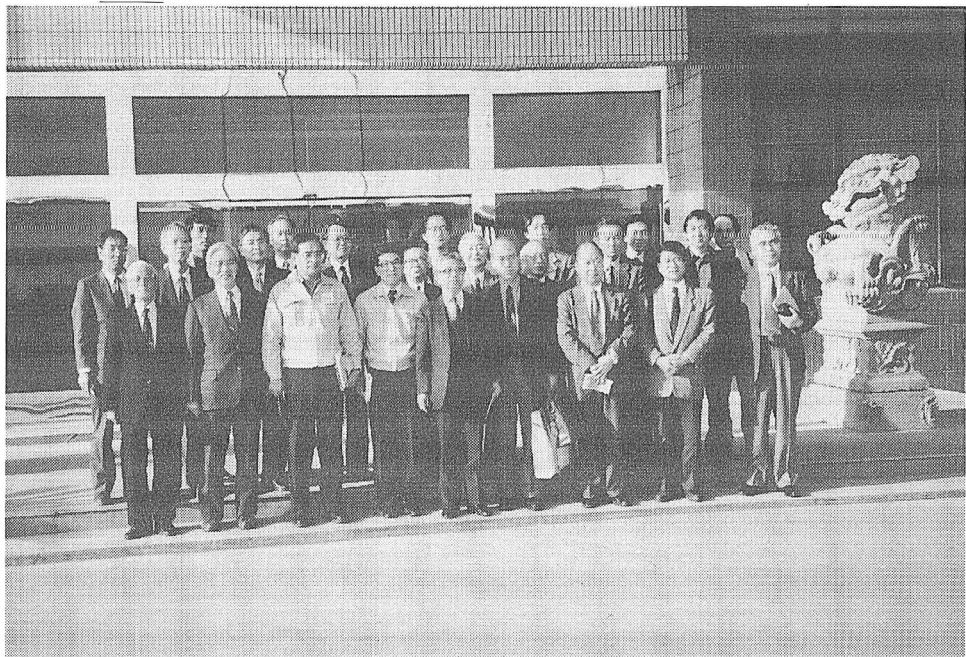
20日(月)は、上海社会科学院の邵力群氏に案内を依頼し、彼の話やバスの中で聞きながら浦東開発区に出かけた。途中、迷路のように入り組んだマーケットである豫園商場を散策したが、ここも中国を感じさせる楽しいところだった。上海市街区と黄浦江を隔てる東岸地帯は浦東地区と呼ばれているが、ここでは350km²におよぶ輸出志向型工業区の開発が1990年から大規模におこなわれている(浦東開発区の現状については図2を参照されたい)。そこでまず浦東地区をバスで一巡し開発の様子を見学し、その後日本の日立製作所と上海氷箱圧縮機股分有限公司の合弁企業である「上海日立電器有限公司」(創業94年、エアコンのコンプレッサーを製造)を訪問した。ここでは技術開発部部長の芹沢幸男氏から合弁企業の現状に関する話を聞いた。夜は上海社会科学院の副院長で浦東開発に関する研究の責任者でもある姚錫棠氏をはじめ上海社会科学院の人々を招待し、中国をめぐるさまざまな問題について親しく懇談した。

今回の視察旅行の最終日となった21日(火)は、すべての予定をこなしあとは日本に帰るだけである。上海の空港で出発の飛行機が遅れるハプニングはあったものの、夕方にはメンバー全員無事成田に到着した。団長の麻島所長の挨拶の後解散した。

図2 浦東新区総合開発計画図



「万里の長城」を訪れる観光客を相手に立ち並ぶ土産品店＝浅見団員撮影



上海日立電器有限公司を訪れた視察団一行

中国企業視察団名簿

- | | | |
|-------|---------------|---------------|
| 〈団長〉 | 麻島 昭一 (経営学部) | |
| 〈秘書長〉 | 高橋 祐吉 (経済学部) | |
| 〈顧問〉 | 儀我 壮一郎 (研究参与) | 三輪 芳郎 (研究参与) |
| 〈団員〉 | 浅見 和彦 (経済学部) | 池本 正純 (経営学部) |
| | 泉 武夫 (経済学部) | 井上 裕 (経営学部) |
| | 内田 弘 (経済学部) | 笠原 伸一郎 (経営学部) |
| | 加藤 幸三郎 (経済学部) | 加藤 佑治 (経済学部) |
| | 北川 隆吉 (文学部) | 黒田 彰三 (経済学部) |
| | 柴田 弘捷 (文学部) | 玉垣 良典 (経済学部) |
| | 福島 義和 (文学部) | 古川 純 (法学部) |
| | 水川 侑 (経済学部) | 皆川 勇一 (文学部) |
| | 矢澤 昇治 (法学部) | |